Ｒ元　塩川小学校　校長室だより　R元年9月30日(月)№6

さわやか



特別活動の充実が、学校教育活動の充実！

中学校では、「生徒会活動が豊かな学校、充実した学校は、落ち着いたよい学校だ。」と言われています。そこには、特別活動で育む生徒の主体的で自治的な力の重要性が含まれています。

「くつを揃えなさい。」という指導は、簡単で即効性があります。しかし、その指導で１００％徹底するかと言えば、そうではありません。何度繰り返し言っても、徹底しないのが常です。子どもを叱ることが増え、子どもとの信頼関係、人間関係に悪影響となります。

子どもが動いて、学校を変える！

「３つの約束」の一つである「履きもの揃え」は、トイレのスリッパが揃わないどころか、昨年度よりよくない状況でした。どげんかせんと、と思案していたところ、児童会運営委員会が動きました。

運営委員が、トイレのサンダルさんからと称し、「きれいに揃えてください。」と呼びかけを行ったところ、次週の２階の男子トイレは、右下の写真の通り、全てのスリッパがきれいに揃っていました。

児童会運営委員会からの工夫ある呼びかけを通して、一週間でこのように改善するとは驚きです。これは、ウソのようなホントの話です。

この子とは、私が常々言っている、「子どもを動かして改善を図る」ことの一つの事例です。



呼びかけ前の男子トイレのスリッパの様子



呼びかけ後の2階男子トイレのスリッパの様子

「子どもが動いて学校を変える」のその2

朝のマラソンは、教育課程外の活動ですが、学校として計画を立て実施しているものなので、朝マラの教育的意義を発揮させなければなりません。そしてその取り組みは、徹底させなければなりません。私が危惧していることは、徹底していなところから「規律」の乱れが広がっていくことです。一事が万事です。

さて、そんな心配を払拭してくれたのは、体育委員の子ども達です。体育委員は、「マラソン週間」をつくり、その中で特に一生懸命な人を表彰するという取り組みをしました。その効果が、次の日の朝のマラソンに取り組む人数の多さと、一生懸命走る姿に表れていました。

私は、体育委員が、塩小のみんなが「目標を持って朝マラに取り組むように」と考え、行動したことを高く評価したいです。稚拙な取り組みであっても、主体的で自治的な行動に価値があります。

小学校においても、子どもが動く学校は、いい学校です。



体育委員会に表彰される1年生



体育委員の取り組み後の朝のマラソンの様子

「子育ちの文化」を発展させる



２年生が１年生を招待して、「おもちゃフェスティバル」を実施しました。２年生は、１年生と遊んであげる、遊び方を教えてあげるなどの意識を持ち、年長者としての自覚を高めて活動しました。

集団教育の中でのこうした経験は、規律の維持・向上だけでなく、豊かな人格形成に大きく寄与するものです。そして、「子育ちの文化」の定着・発展に大きく寄与する活動でした。